

1. 評価報告概要表

作成日平成21年 9月14日

【評価実施概要】

事業所番号	1070500978
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社
事業所名	グループホームかえで
所在地	太田市龍舞町5655 (電話) 0276-30-2655

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年8月27日

【情報提供票より】(平成21年7月29日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年12月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 5人, 非常勤 3人, 常勤換算 6.4人	

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋建て造り		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費(月額500円)	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	60 円

(4) 利用者の概要(7月29日現在)

利用者人数	9名	男性	5名	女性	4名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	1名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	78歳	最高	98歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田沼内科医院、しのぎき歯科クリニック、訪問看護ステーションクララ・トーホー、社会福祉法人豊延会いずみの里
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅街にある特性を活かし、運営推進会議を通じ地域の人々に対して認知症やグループホームの役割等を深めていただくと共に、祭りの御輿や地域のボランティアが事業所を訪れる等、地域との触れ合いを大切に一つの家・家族としてのグループホームを目標に取り組んでいる。また、職員会議で理念に沿った年間目標を作成し、入居者が充実した日々を過ごせるよう支援している。今年度の目標は、毎月行う外食行事と月間行事を充実することとし、歩いて行く洋食やラーメン等の外食行事や入居者の希望による重や握り寿司の出前注文を毎月行っている。月間行事の充実としては、桜や藤の花見を兼ねたドライブや家族を交えたぶどう狩り並びに運動会や花火大会・スイカ割りや月見等季節を肌で感じられる各種行事を開催している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の改善課題である「チームでつくる利用者本位の介護計画」では、アセスメント用紙の様式の変更を行い、担当者が記入し管理者が承認印を押す等の改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を常勤職員が行い、職員会議で話し合い管理者がまとめている。自己評価を活かし、各種記録の記入漏れ防止、入居者一人ひとりの残存機能を活かした自立支援に意欲的に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>全入居者家族および民生委員に案内し、運営推進会議を隔月に開催している。活動状況報告、介護報酬の決定、事故・ヒヤリハット報告および対応等について説明し、意見交換を行っている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>「かえで新聞」を隔月に発行し、花見や外食行事等の記事や写真を掲載して、毎月の利用料持参の折りに渡し、入居者の健康状態や生活状況等を報告している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議や地域との交流を通じ、地域の人々に対して認知症やグループホームの役割等の理解を深めていただくよう努めている。自治会に加入し回覧板が回り、祭りの御輿が事業所に来て入居者と写真を撮ったり、幼稚園児の訪問による楽器演奏や地域のボランティアのオカリナ演奏が行われている。また、中学生の体験学習や高校生が育成した野菜や草花の出張販売等も行われ、地域の人々との交流促進に努めている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成20年に理念を見直し、「ひとりひとりの尊厳を厳守し、思いやりと感謝の気持ちのもと、地域の皆様とのふれあいを大切に、心の和む、充実した毎日を過ごせる」を理念に掲げ支援している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を職員会議で話し合い見直しを行い、住宅街にある特性を活かし地域との触れ合いを大切に、一つの家・家族としてのグループホームを目標にして取り組んでいる。また、理念に沿った年間目標を作成し、今年度は外食行事と運動会や花見等の月間行事の充実を掲げ、サービスの提供を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議や地域との交流を通じ、地域の人々に認知症やグループホームの役割等の理解を深めて頂くよう努めている。自治会に加入し回覧板が回り、祭りの御輿が事業所に来て入居者と写真を撮ったり、幼稚園児の訪問による楽器演奏や地域ボランティアのオカリナ演奏が行われている。また、中学生の体験学習や高校生が育成した野菜や草花の出張販売等も行われ、地域の人々との交流促進に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を常勤職員が行い、職員会議で話し合い管理者がまとめている。自己評価を活かし、各種記録の記入漏れの防止、一人ひとりの残存機能を活かした自立支援に意欲的に取り組んでいる。また、前回評価の課題には、アセスメント用紙の様式を変更し、担当者が記入し管理者が承認印を押す等の改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	全入居者家族及び民生委員に案内し、運営推進会議を隔月に開催している。活動状況報告、介護報酬の決定、事故・ヒヤリハット報告及び対応等について説明し、意見交換を行っている。自己評価及び外部評価の報告は、議事録に記載されていない。	○	自己評価及び外部評価の結果を議題としてあげ話し合いを行い、サービスの向上に活かすよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	外部評価における改善状況や空き室情報を伝え、事業所運営に伴う疑問点について指導を受けたり、新型インフルエンザや市主催の研修会情報を得るなど市との連携を図りサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「かえで新聞」を隔月に発行し、毎月の利用料持参の折りに、花見や外食行事等の記事や写真を掲載して、入居者の健康状態や生活状況を報告している。預り金の管理は、毎月の利用料請求時に領収書を添え精算している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、重要事項説明書に苦情申立先として事業所担当者名及び本社、市役所や国保連の担当窓口・電話番号を記載して説明し、家族の意見等を表せるよう配慮している。家族から「衣替えで家に持ち帰った衣類が盗まれたと本人が言う」という相談に対し、持ち帰った衣類を再度持ってきてもらう等の対応を取っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新設グループホームに近い住居地の職員を、希望により異動したことはあるが、法人内の異動は原則行っていない。新規採用職員にはホーム長がマンツーマンで指導し、夜勤も慣れるまでホーム長と2人体制で行うなど、入居者へのダメージを防ぐ配慮を行っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県が主催する認知症介護実践者研修を受講し、職員会議で発表しその成果を職員に伝えている。法人が運営する総ての事業所職員を対象として、「認知症介助や感染症予防」に関する研修を開催している。また、職員は年2回勤務に関する目標を掲げ、目標に対する自己評価を行い、ホーム長等が面接評価している。職員の資格取得に対しては、講習日は勤務から外す等の便宜供与を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、職員相互派遣研修に参加している。また、法人が運営する14のグループホームの管理者会議を年1回開催し、各事業所の運営方針や活動目標等を発表し意見交換を行っている。	○	連絡協議会が主催する大会での事例発表や各種研修会に参加すると共に、法人が運営するグループホーム以外の同業者と交流する機会を持ちサービスの質の向上を図られるよう期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人や家族に見学してもらい、重要事項説明書や運営規程等を説明し、入居にあたっての希望や食事の好き嫌い等を聞くなど本人や家族の不安解消に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と食材の買い物に行ったり、食器洗いやプランターで野菜や花の栽培管理を行ったり、漢字の読み方を教えてもらうなど共に支え合う生活をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事中の会話や日々のコミュニケーションを通じて意向や希望を聞き、入居前の生活が継続できるよう支援している。意思表示の困難な入居者には、笑顔等の表情や仕草から、意向や希望を把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当する入居者について介護計画に沿った経過記録を行い、毎月開催するケアカンファレンスで意見交換を行い、介護計画を作成している。面会時や利用料を持参した時に家族の意向や希望を聞き介護計画に反映し、その際に介護計画を説明している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期見直しの他、家族から「むくみ」を解消して欲しいと希望を聞き、ケアカンファレンスでリハビリを取り入れた介護計画に変えるなど現状に即し介護計画の変更を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医の定期受診は原則家族の対応であるが、発熱など緊急時は職員が送迎している。美容師の資格を所持する職員が、家族の了解のもとに総ての入居者の理美容にあたっている。また、医療連携体制の指定を受け、入居者の負担となる通院等の回避を図っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者の約半数の人が、入居前からのかかりつけ医にバイタルチェック表のコピーを持参し受診している。また、日々の健康状態チェックは、訪問看護師が行っている。協力医をかかりつけ医とする入居者は、月2回の往診を受け、受診結果はその都度家族に伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を記載し、重度化した状態や終末期の判断、重度化や終末期の事業所の基本姿勢、医療連携等を説明し、記名・押印を頂いている。総ての家族が、看取りまでの支援を希望している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「駄目じゃない」等尊厳を傷つける言葉かけを避けている。「かえで新聞」に掲載する写真は家族の了解を得ており、各種記録は入居者に気づかれないよう記載し、事務室の書棚に保管している。また、汚れ物を隠す等問題行動のある入居者には、他の入居者に気づかれないような言葉かけを行い対応し、家族との話し合いも本人を交えず行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	長湯を希望する入居者や朝食の進まない入居者には、時間を取り支援している。外出を希望する入居者には散歩や食材の買い物に出かけたり、失禁者の行動パターンを把握しトイレ誘導するなど、一人ひとりのペースを大切に支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	最大の楽しみである食事を提供するため、入居者の希望を取り入れた献立を作成したり、法人で米(魚沼産)を購入したり、毎月1回洋食やラーメン等の外食行事を行ったり、毎月1回入居者が希望するうな重や握り寿司等の出前を注文している。また、入居者は当番で「いただきます」「ご馳走様でした」と発声したり、食器拭きやおしぼり巻きを行っている。晩酌をする入居者などもあり、職員と共にテーブルを囲み楽しい一時を過ごしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後給湯し、最低週2日の入浴を目標に何時でも入浴できる体制をとっている。毎日入浴剤を変え、同性同士2~3人声をかけあい広い浴槽でゆったり、のんびり、その人のペースで入浴を楽しんでもらえるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の声かけ当番、ホールや廊下のモップ拭き、居室の拭き掃除、カーテンを開けるなど、日々の役割を担っている。また、指に絵の具を付けアジサイの指し絵描きや習字を楽しんでいる。理念に沿った目標実現のため運動会や花火大会、スイカ割りや月見など季節に合わせた各種行事の充実を図っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日の散歩や入居者も同行して週3日の食材の買い物をしている。歩いて出かける毎月1回の外食行事や桜や藤の花見を兼ねたドライブを行っている。また、家族も参加してブドウ狩りに行ったり、法人が運営する他のグループホームとの食事会を開催するなど積極的な外出支援に取り組んでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	法人の「身体拘束その他の行動制限マニュアル」があり、入居者が無断外出した際には近隣の人に声かけをして頂くなどの協力依頼を行い、鍵をかけないケアに取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画を作成し、年2回消防署の指導のもとに近隣の人の参加を得て、消火避難訓練を実施している。消防署からは避難経路の指定や非常口の鍵の付け替え指導を受けている。また、家族も参加しAEDの講習会を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バイタルチェック表に食事割合を記入し、水分は1300ccを目安に摂取量を記録している。医師から指示のある入居者の水分補給には意を用い、夏場は食堂にピュアウォーター(純水)を置いたり、お茶の苦手な入居者にはジュースや牛乳を用意するなどしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食堂、廊下には、鉢植えの花や子ども御輿が置かれたり、習字や指し絵・各種行事の写真が飾られている。食堂のテーブルや居間のソファは気の合う入居者同士が自然と隣り合うように座る場所が決まっており、それぞれが楽しそうに食事を摂ったり、テレビを見ている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室ドアの脇の飾り棚には、入居者の写真と花が置かれている。居室には馴染みの家具やテーブル・椅子が持ち込まれたり、習字や塗り絵が飾られるなど、居心地良く過ごせるよう配慮されている。		